【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第１区分
【発行日】令和6年9月27日(2024.9.27)

【国際公開番号】WO2021/008501
【公表番号】特表2022-540868(P2022-540868A)
【公表日】令和4年9月20日(2022.9.20)
【年通号数】公開公報(特許)2022-173
【出願番号】特願2022-502030(P2022-502030)
【国際特許分類】
Ｃ１２Ｎ　7/01(2006.01)
Ａ６１Ｋ 35/76(2015.01)
Ａ６１Ｐ 43/00(2006.01)
Ａ６１Ｋ 45/00(2006.01)
Ａ６１Ｋ　9/08(2006.01)
Ａ６１Ｋ 31/513(2006.01)
Ａ６１Ｋ 31/519(2006.01)
Ａ６１Ｋ 31/7068(2006.01)
Ａ６１Ｋ 31/282(2006.01)
Ａ６１Ｋ 39/395(2006.01)
Ａ６１Ｐ 35/00(2006.01)
Ａ６１Ｐ 35/02(2006.01)
Ｃ１２Ｎ 15/12(2006.01)
Ｃ１２Ｎ 15/39(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ１２Ｎ　7/01　　ＺＮＡ
Ａ６１Ｋ 35/76
Ａ６１Ｐ 43/00　１２１
Ａ６１Ｋ 45/00
Ａ６１Ｋ　9/08
Ａ６１Ｋ 31/513
Ａ６１Ｋ 31/519
Ａ６１Ｋ 31/7068
Ａ６１Ｋ 31/282
Ａ６１Ｋ 39/395　　Ｎ
Ａ６１Ｐ 35/00
Ａ６１Ｐ 35/02
Ｃ１２Ｎ 15/12
Ｃ１２Ｎ 15/39

【誤訳訂正書】
【提出日】令和6年9月18日(2024.9.18)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】全文
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
腫瘍細胞における選択的複製及び／または免疫細胞の活性化のための変異ウイルス配列

、及び
免疫共刺激経路活性化分子、及び免疫調節因子遺伝子をコードする異種配列
を含む遺伝子組み換えワクシニアウイルスであって、
前記変異ウイルス配列はL025、TK、及びA46Rの欠失を含み、
前記免疫共刺激経路活性化分子は4-1BBリガンドまたはその改変体であり、
前記免疫調節因子はIL-21またはその改変体であり、
前記異種配列は、遺伝子組み換えワクシニアウイルスのゲノムに安定的に組み込まれている、
前記遺伝子組み換えワクシニアウイルス。
【請求項２】
異種配列が、以下の少なくとも1つを含む、請求項1に記載の遺伝子組み換えワクシニアウイルス：
(a) 配列番号：6に記載の配列；
(b) 配列番号：8に記載の配列；
(c) 配列番号：10に記載の配列；または
(d) 配列番号：12に記載の配列。
【請求項３】
異種配列が、以下のうちの少なくとも1つをコードする、請求項1に記載の遺伝子組み換えワクシニアウイルス：
(a) 配列番号：5に記載の配列；
(b) 配列番号：7に記載の配列；
(c) 配列番号：9に記載の配列；または
(d) 配列番号：11に記載の配列。
【請求項４】
前記遺伝子組み換えワクシニアウイルスが下記式の配列を含む、請求項1に記載の遺伝子組み換えワクシニアウイルス：
5’-A1-X-A2-B1-Y-B2-C1-Z-C2-3’
（式中、A1及びA2はそれぞれ第1のウイルス遺伝子の左アーム及び右アームであり、B1及びB2はそれぞれ第2のウイルス遺伝子の左アーム及び右アームであり、C1及びC2はそれぞれ第3のウイルス遺伝子の左アーム及び右アームであり、X、Y及びZは、それぞれ免疫調節遺伝子、サイトカイン、治療遺伝子、切断ウイルスエンベロープ遺伝子、腫瘍抑制遺伝子、治療抗体をコードする遺伝子、及び治療抗体のリガンドをコードする遺伝子の1つから選択される異種の遺伝子である。）。
【請求項５】
第1のウイルス遺伝子がL025であり、第2のウイルス遺伝子がTKであり、第3のウイルス遺伝子がA46Rである、請求項4に記載の遺伝子組み換えワクシニアウイルス。
【請求項６】
前記変異ウイルス配列がL025、TK、及びA46Rの欠失の変異を有し、
前記異種配列がIL-21及び4-1BBLを有する、請求項1記載の遺伝子組み換えワクシニアウイルス。
【請求項７】
前記異種配列がさらに切断ウイルスエンベロープ遺伝子、及び／または、腫瘍抑制遺伝子をコードし、
当該切断ウイルスエンベロープ遺伝子が、ショートコンセンサスリピート(SCR)2、SCR3、及びSCR4ドメインの欠失を含むB5Rである、
請求項1記載の遺伝子組み換えワクシニアウイルス。
【請求項８】
前記変異ウイルス配列がL025、TK、及びA46Rにおける欠失の変異を有し、
前記異種配列がIL-21と改変B5Rとのハイブリッド遺伝子、及び4-1BBLを含む、
請求項7に記載の遺伝子組み換えワクシニアウイルス。

【請求項９】
前記腫瘍抑制遺伝子がHIC1である、請求項7に記載の遺伝子組み換えワクシニアウイルス。
【請求項１０】
遺伝子組み換えワクシニアウイルスが、Lister、Western Reserve(WR)、Copenhagen(Cop)、Bern、Paris、Tashkent、Tian Tan、Wyeth(DRYVAX)、IHD-J、IHD-W、Brighton、Ankara、CVA 382、改変ワクシニアウンカラ(MVA)、Dairen I、LC16m8、LC16M0、LIVP、ACAM2000、WR 65-16、Connaught、New York City Board of Health(NYCBH)、EM-63及びNYVAC株からなる群より選択される、請求項1に記載の遺伝子組み換えワクシニアウイルス。
【請求項１１】
請求項1に記載の遺伝子組み換えワクシニアウイルスを含む医薬組成物。
【請求項１２】
医薬組成物が、経口、局所、非経口送達、または介入療法用に製剤化されている、請求項11に記載の医薬組成物。
【請求項１３】
医薬組成物が、局所的な腫瘍内注射、局所的な動脈内（腫瘍に供給する血管）注射、腹腔内注射、胸腔内注射、全身的な静脈内注射、筋肉内注射、皮下注射、髄腔内注射、直接脳室内注射、心臓内注射、鼻腔内注射のために製剤化されている、請求項11に記載の医薬組成物。
【請求項１４】
遺伝子組み換えワクシニアウイルスが、単独療法として；または抗癌剤、免疫抑制剤、及び／または腫瘍溶解性ウイルス増強剤と組み合わせて使用される、請求項11に記載の医薬組成物。
【請求項１５】
遺伝子組み換えワクシニアウイルスが、5-フルオロウラシル(FU)、フォリン酸(FA)、メトトレキサート、カペシタビン、オキサリプラチン、ベバシズマブ、セツキシマブ、免疫チェックポイント阻害剤、他の種類の腫瘍溶解性ウイルス、またはそれらの任意の組み合わせと組み合わせて使用される、請求項11に記載の医薬組成物。
【請求項１６】
それを必要とする対象における癌の治療に使用するための医薬組成物であって、該医薬組成物の有効量を対象に投与することを含む、請求項11に記載の医薬組成物。
【請求項１７】
癌が、肺癌、メラノーマ、膵臓癌、肝臓癌、結腸癌、乳癌、グリオブラストーマ、肉腫、胃癌、卵巣癌、中皮腫、及び白血病からなる群から選択される、請求項16に記載の医薬組成物。
【請求項１８】
請求項1に記載の遺伝子組み換えワクシニアウイルスの有効量を、癌組織または癌細胞のスクリーニングに使用する方法。
【請求項１９】
ワクシニアウイルスの腫瘍特異的感染性を高めるための医薬組成物であって、該医薬組成物は対象に抗腫瘍免疫反応を引き起こすのに有効な量で投与される、請求項11に記載の医薬組成物。
【請求項２０】
それを必要とする対象において腫瘍再発に対する持続的な免疫を付与するための、請求項11に記載の医薬組成物。
【請求項２１】
患者の癌細胞を感染させてから48時間後のGFP陽性細胞の割合に基づき、患者をスクリーニングするための、請求項11に記載の医薬組成物。
【請求項２２】

癌細胞の増殖抑制、癌細胞の死滅誘導、癌細胞の生物学的活性の調節、免疫応答の調節、T細胞の増殖の増強、及び／またはT細胞の細胞傷害に使用するための、請求項11に記載の医薬組成物。
【請求項２３】
のDNA修復阻害、癌　癌細胞の生物学的活性の調節が癌細胞複製の阻害、癌細胞分裂の阻害、癌細胞細胞の移動阻害または癌死の促進を含む、請求項22に記載の医薬組成物。
【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００１２
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００１２】
本開示は、変異ウイルス配列及び異種配列を含む遺伝子組換えワクシニアウイルスを提供し、ここで、変異ウイルス配列は、腫瘍細胞における選択的複製、及び／又は免疫細胞の活性化を促進し、異種配列は、免疫共刺激経路活性化分子、免疫調節因子遺伝子、切断ウイルスエンベロープ遺伝子、及び／又は腫瘍抑制因子をコードし、異種配列は、遺伝子組換えワクシニアウイルスのゲノムに安定的に組み込まれる。
【誤訳訂正３】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００１８
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００１８】
(d) L025、TK、またはA46Rの一部または全部が、配列番号：2、4、6、8、10、12、または14に記載の配列のうちの1つによって置換されている；
【誤訳訂正４】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００１９
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００１９】
(e) L025、TK、またはA46Rの一部または全部が、腫瘍標的遺伝子によって置換されている；
【誤訳訂正５】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００２０
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００２０】
(f) L025、TK、またはA46Rの一部または全部が、T細胞を標的とするリガンドまたは抗体によって置換されている；
【誤訳訂正６】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００２１
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００２１】
(g) L025、TK、またはA46Rの一部または全部が、治療用遺伝子またはその改変体によって置換されている；あるいは
【誤訳訂正７】

【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００２２
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００２２】
(h) L025、TK、またはA46Rの一部または全部が、治療用抗体によって置換されている。
【誤訳訂正８】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００３９
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００３９】
遺伝子組換えワクシニアウイルスの一実施形態では、遺伝子組換えワクシニアウイルスは、以下の式の配列を含む：
5’-A1-X-A2-B1-Y-B2-C1-Z-C2-3’
（式中、A1及びA2はそれぞれ第1のウイルス遺伝子の左アーム及び右アームであり、B1及びB2はそれぞれ第2のウイルス遺伝子の左アーム及び右アームであり、C1及びC2はそれぞれ第3のウイルス遺伝子の左アーム及び右アームであり、C1及びC2は第3のウイルス遺伝子の左アームであり、ここで、X、Y及びZは、それぞれ免疫調節遺伝子、サイトカイン、治療遺伝子、切断ウイルスエンベロープ遺伝子、腫瘍抑制遺伝子、治療抗体をコードする遺伝子、及び治療抗体のリガンドをコードする遺伝子の1つから選択される異種の遺伝子である。）
【誤訳訂正９】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００４３
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００４３】
遺伝子組換えワクシニアウイルスの実施形態では、変異ウイルス配列は、L025、TK及びA46Rにおける欠失の変異を含み、異種配列は、IL-21と改変B5Rとのハイブリッド遺伝子、及び4-1BBLを含む。
【誤訳訂正１０】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００４４
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００４４】
遺伝子組み換えワクシニアウイルスの一実施形態では、免疫調節因子遺伝子は、IL-12、IL-21、IL-2、IL-15、IL-8、またはそれらの改変体をコードするサイトカイン遺伝子である。
【誤訳訂正１１】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００４５
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００４５】
遺伝子組み換えワクシニアウイルスの一実施形態では、免疫共刺激経路活性化分子は、CD40リガンド(CD40L)、ICOSリガンド、GITRリガンド、4-1BBリガンド、OX40リガンド、TL1A、CD30リガンド、CD27、Flt3リガンド、またはそれらの改変体から構成

される。
【誤訳訂正１２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００６１
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００６１】
癌細胞の死を誘導すること、癌細胞の生物学的活性を調節すること、免疫応答を調節すること、T細胞の増殖、及び／又はT細胞の細胞毒性を増強することに使用するための遺伝子組み換えワクシニアウイルスであって、組換え腫瘍溶解性は、本開示の実施形態のいずれか1つに提供される通りである、遺伝子組み換えワクシニアウイルス。
【誤訳訂正１３】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００６２
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００６２】
癌細胞死を誘導すること、癌細胞の生物学的活性を調節すること、免疫応答を調節すること、T細胞の増殖を増強すること、及び／またはT細胞の細胞毒性を高めることに使用するための遺伝子組み換えワクシニアウイルスであって、癌細胞の生物学的活性が、癌細胞の複製の阻害、癌細胞の分裂の阻害、癌細胞のDNA修復の阻害、癌細胞の遊走の阻害、または癌細胞死の促進を含んでなり、組換え腫瘍溶解性は、本開示の任意の１の実施の形態で提供される通りである、遺伝子組み換えワクシニアウイルス。
【誤訳訂正１４】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００６３
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００６３】
肺癌、メラノーマ、膵臓癌、肝臓癌、結腸癌、乳癌、グリオブラストーマ、肉腫、胃癌、卵巣癌、中皮腫、及び白血病を治療するための医薬品の製造に使用するための遺伝子組み換えワクシニアウイルスであって、組換え腫瘍溶解性が、本開示の実施態様のいずれか1つで提供されるとおりである、遺伝子組み換えワクシニアウイルス。
【誤訳訂正１５】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００６４
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００６４】
癌細胞の増殖を抑制し、癌細胞の死を誘導し、及び／又は癌細胞の生物学的活性を調節するための医薬の製造に使用するための、遺伝子組み換えワクシニアウイルスであって、組み換え腫瘍溶解性が、本開示の実施形態のいずれか1つで提供される通りである、遺伝子組み換えワクシニアウイルス。
【誤訳訂正１６】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００８７
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００８７】
本開示のワクシニアウイルス及びウイルスベクターは、以下の式の配列を含む：

5’-A1-X-A2-B1-Y-B2-C1-Z-C2-3’
（式中、A1及びA2はそれぞれ第１のウイルス遺伝子の左アーム及び右アームであり、B1及びB2はそれぞれ第２のウイルス遺伝子の左アーム及び右アームであり、C1及びC2はそれぞれ第３のウイルス遺伝子の左アーム及び右アームであり、ここで、X、Y、及びZはそれぞれ、免疫調節遺伝子、サイトカイン、治療遺伝子、及び治療抗体、治療抗体のリガンドから選択される）。得られた生成物の例示的な構造を図1A及び1Bに示す。第1のウイルス遺伝子はL025、第2のウイルス遺伝子はTK、第3のウイルス遺伝子はA46Rである。XはIL-21と改変B5Rのハイブリッド遺伝子、Yは4-1BBL、ZはHIC1である。

【誤訳訂正１７】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】０１１９
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【０１１９】
ウイルス: 野生型VV Listerは、ATCC受託番号VR-1549™でAmerican type culture collection (ATCC) から市販されている。野生型VV Listerは、CCTCC受託番号：V201937下で中国典型培養物保蔵センター(CCTCC)にも寄託されている。寄託日は2019年7月4日で、指定株はLister vaccinia virus 01(VV 01)である。ATCC VR-1549™の製品シートからも詳細情報を入手できる。組換えVV Listerは、CCTCC受託番号V201938でCCTCCに寄託されている。寄託日は,2019年7月4日で、指定株は、ワクシニアウイルスLister KM1株である。野生型VV Lister及び組換えVV Listerの両方は、ブダペスト条約に基づき寄託されている。野生型VV Lister及び組換えVV Listerは、〒430072、中国武漢大学生命科学院、中国典型培養物保蔵センター(CCTCC)に寄託されている。野生型VV Lister及び組換えVV Listerの寄託者は、Shenzhen Hua Yao Kang Ming Biopharmaceutical Co. Ltd., 14 Jinhui road, Pingshan District, Shenzhen, China (the Applicant) である。

【誤訳訂正１８】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】０１７２
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【０１７２】
(c) L025遺伝子の欠失
L025遺伝子にコードされるタンパク質は、免疫細胞におけるNF Kappa Bシグナル伝達経路の活性化を阻害することにより、免疫応答を抑制することができる。L025遺伝子を欠損させることにより、前記遺伝子産物による免疫系阻害を消失させ、抗腫瘍免疫反応を向上させることができる。

【誤訳訂正１９】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】０１７３
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【０１７３】
(d) A46R遺伝子の欠失
A46R遺伝子にコードされるタンパク質は、NF Kappa Bシグナル伝達経路の上流に作用して、免疫細胞の活性化を抑制する。この遺伝子を欠失させると、抗腫瘍免疫反応が改善される。

【誤訳訂正２０】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】０１７４

【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【０１７４】
（ｅ）ウイルスは、ワクシニアウイルスのＢ５Ｒ-部分領域欠失遺伝子（ｍＢ５ＲまたはｓＢ５Ｒ）を追加で有する。
【誤訳訂正２１】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】０１７５
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【０１７５】
（ｆ）ウイルスは、インターロイキン２１(ＩＬ-２１)遺伝子を有する。インターロイキン２１は、ＮＫ細胞やキラーＴ細胞も活性化する。インターロイキン２１を有するウイルスは、腫瘍に対する免疫反応を促進させることができる。治療用遺伝子は、Ｌ０２５領域に挿入される。
【誤訳訂正２２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】０１７６
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【０１７６】
（ｇ）ウイルスは４-１ＢＢＬ遺伝子を有する。４-１ＢＢは活性化Ｔ細胞に発現し、４-１ＢＢはそのリガンドである４-１ＢＢＬに結合してＴ細胞の増殖と細胞傷害性を高める。本製品をより効果的にするために、４-１ＢＢＬ遺伝子がウイルスに組み込まれる。治療用遺伝子は、ＴＫ領域に挿入される。
【誤訳訂正２３】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】０１７７
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【０１７７】
（ｈ）ウイルスは腫瘍抑制遺伝子ＨＩＣ１遺伝子を有する。ＨＩＣ１は多くの腫瘍で不活性化または消失する。Ｉｎ ｖｉｖｏの実験では、この遺伝子を失った腫瘍で発現させると、腫瘍の進行を抑制できることが示されている。この遺伝子は、Ａ４６Ｒ遺伝子領域に挿入される。
【誤訳訂正２４】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】０１７８
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【０１７８】
（ｉ）ウイルスはインターロイキン１２(ＩＬ-１２)遺伝子を有する。インターロイキン１２は、ナチュラルキラー細胞（ＮＫ細胞）やキラーＴ細胞を制御及び活性化することが知られている。本剤に含まれるインターロイキン１２は、ＮＫ細胞及びＴ細胞を活性化することが有効性予備試験で示されている。治療用遺伝子は、Ａ４６Ｒ領域に挿入される。
【誤訳訂正２５】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】０１８０
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【０１８０】

本開示の特徴(e)によれば、ドメインが欠失したB5R遺伝子をコードする核酸配列を含むワクシニアウイルスベクターが提供される。この配列は、ワクシニアウイルスのL025遺伝子に組み込まれ、置換されたものである。本品は、mB5R/sB5Rを有し、ウイルスがよりよく拡散することを可能にし、それによって腫瘍細胞を殺す能力を増加させる。

【誤訳訂正２６】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】０２０５
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【０２０５】
配列は、免疫調節因子遺伝子、免疫共刺激経路活性化分子、チェックポイント阻害剤、細胞障害性遺伝子、腫瘍抑制遺伝子、抗血管新生遺伝子などを含む治療用遺伝子をさらに含んでいてもよい。

【誤訳訂正２７】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】０２４０
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【０２４０】
本開示の一実施形態では、癌細胞の成長を抑制する、癌細胞の死を誘導する、及び／又は癌細胞の生物学的活性を調節するための医薬品の製造に使用されるウイルスを提供する。

【誤訳訂正２８】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】０２４１
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【０２４１】
癌細胞の生物学的活性は、癌細胞の複製の阻害、癌細胞の分裂の阻害、癌細胞のＤＮＡ修復の阻害、癌細胞の遊走の阻害、または癌細胞死の促進を含む。

【誤訳訂正２９】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】０２５７
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【０２５７】
本開示の組成物、医薬組成物は、所望により、FDA承認キットなどのパックまたはディスペンサー装置、または活性成分を含む1つ以上の単位剤形を含むことができる製造品（包装材料を含む）中に提示されてもよい。パックは、例えば、ブリスターパックのような金属箔又はプラスチック箔から構成されてもよい。パック又はディスペンサー装置には、対象への投与、移植及び／又は治療に関する説明書が添付されていてもよい。パック又はディスペンサーは、医薬品の製造、使用又は販売を規制する政府機関によって規定された形式の容器に関連する通知によって収容することもでき、この通知は、組成物の形態又はヒト若しくは獣医の投与に対する政府機関による承認を反映したものである。このような通知は、例えば、処方薬について米国食品医薬品局によって承認された表示、または承認された製品挿入物のものであってよい。適合性のある医薬担体中に配合された本発明の組成物、マトリックスまたはヒドロゲルはまた、上記にさらに詳述されているように、示された状態の処置のために調製され、適切な容器に入れられ、ラベル表示されてもよい。

【誤訳訂正３０】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】０２８８

【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【０２８８】
図１４（上）：白血病患者０５１８#、６#、７#、８#及び２#のコントロールウェル（ＫＭ１感染なし、上部パネル）及びＫＭ１感染ウェルにおける生細胞／死細胞のＦＡＣｓプロファイル。図１４Ｂ：白血病患者０５１８#、６#、７#、８#及び２#のコントロールウェル（ＫＭ１感染なし、上部パネル）及びＫＭ１感染ウェルにおける死細胞パーセンテージ。